

—— 2013年度 中間期 ——

株 主 通 信

2013年1月1日～2013年6月30日
BUSINESS REPORT 2013

中外製薬株式会社



左：永山 治会長 右：小坂 達朗社長

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2013年度中間期(2013年1月1日から2013年6月30日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2013年8月

代表取締役会長
最高経営責任者

永山 治

代表取締役社長
最高執行責任者

小坂 達朗

目次

ごあいさつ	1	主要製品	11
マネジメントメッセージ	2	くすりのはなし	12
TOPICS	6	会社の概況／株式の概況	13
特集「IFRSで何が変わるの？」	7	株主インフォメーション	14
主な臨床開発の状況	9		

すべての革新は患者さんのために

代表取締役会長 最高経営責任者

永山 治



■ 新製品含む国内主要製品・海外製商品の売上伸長、ロイヤルティ及びその他の営業収入の増加等により増収増益を達成

2013年度中間期は、薬価改定の影響及び「エビスタ」の販売提携終了の影響があったものの、製商品売上高、ロイヤルティ及びその他の営業収入がいずれも伸長し、売上が順調に推移しました。なお、当社の連結決算は、

本年度よりIFRS(国際会計基準)を適用したため、同基準により算出したCore実績数値をベースに、以下ご報告申し上げます。(IFRS及びCore実績についての詳細は、p7～8の特集記事をご参照ください)

国内製商品(「タミフル」を除く)の販売では、「アバスタチン」を中心に、がん領域が前年同期比63億円(8.7%)増と引き続き順調に推移しています。骨・関節領域は、「エディ

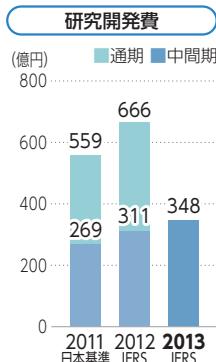
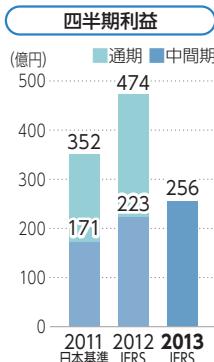
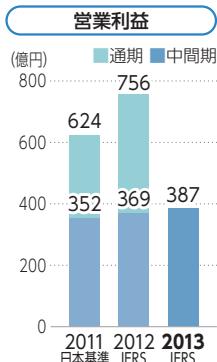
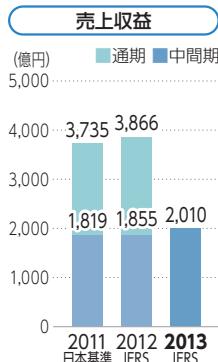
Core実績連結財務ハイライト (2013年1月1日～2013年6月30日)

売上収益 2,010億円
(前年同期比 8.4%増) ▲

営業利益 387億円
(前年同期比 4.9%増) ▲

四半期利益 256億円
(前年同期比 14.8%増) ▲

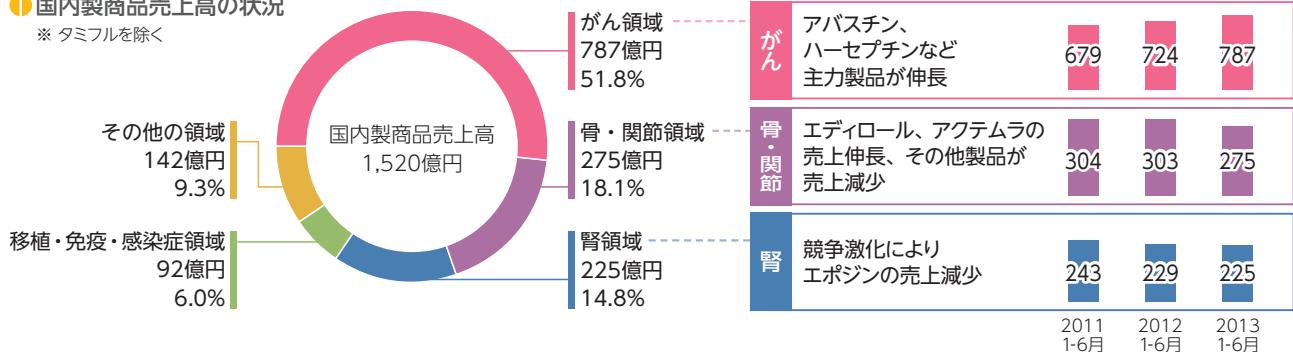
研究開発費 348億円
(前年同期比 11.9%増) ▲



マネジメントメッセージ

国内製商品売上高の状況

※ タミフルを除く



ロール」と「アクテムラ」が大きく伸長したものの、「エビスタ」の販売提携終了により、同28億円(9.2%)減となりました。結果として全体の売上高は、薬価改定による影響があった中で1,520億円(前年同期比1.0%増)となりました。なお、「タミフル」の売上は90億円(同11.1%増)となりました。

一方、海外製商品の販売は、円安影響に加えて、「アクテムラ」のロシウ向け輸出が大きく伸びたため、278億円(同29.3%増)に拡大しました。

以上の製商品売上高に加えて、**マイルストーン収入**^{※1}の増加、ロシウによる「アクテムラ」の海外売上増加に伴う受取ロイヤルティ、**プロフィットシェア**^{※2}の増加等により、ロイヤルティ及びその他の営業収入が54億円から122億円に

大幅に増加したことから、当中間期の売上収益は2,010億円(同8.4%増)となりました。

利益面では、円安影響と製品構成の変化に伴い原価率が上昇したほか、販売費及び研究開発費においても円安影響による増加が見られたものの、営業利益387億円(同4.9%増)、四半期利益256億円(同14.8%増)と、増益となりました。

5品目の承認取得、新たな臨床試験の開始により、パイプラインは引き続き充実

研究開発については、7月25日現在で5品目の承認取得を果たし、新たに6つのプロジェクトが臨床試験を開始するなど、数多くの進展がありました。

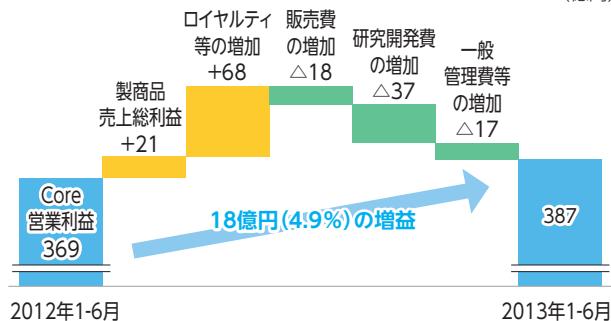
用語解説

- ※1 **マイルストーン収入**
新薬のライセンス先企業から支払われ、開発の進捗に伴って得られる収入。
- ※2 **プロフィットシェア**
ロシウとの共同販売で得られた利益のうち当社の取り分。

- ※3 **非小細胞肺癌**
肺癌のうち約80%を占め、腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんに分類される。
- ※4 **追加適応**
医薬品の有効性について、対象となる疾患を拡大するために、適応症の追加を申請すること。

● Core営業利益の増減内訳

(億円)



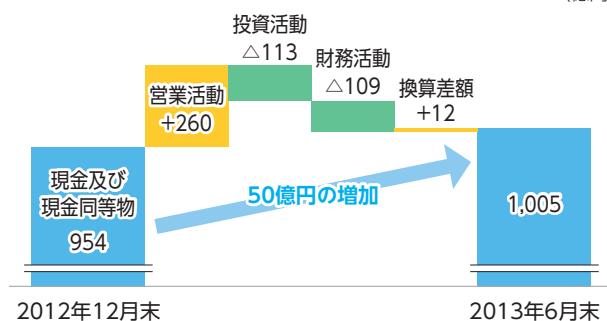
がん領域では、乳がんに対する新製品「RG1273(製品名: パージェタ)」と、「タルセバ」の**非小細胞肺癌**^{※3} [1次治療]の**追加適応**^{※4}、「アバスチン」の**悪性神経膠腫**^{※5}への追加適応について、それぞれ承認を取得しました。また、乳がんを予定適応症とする「RG3502」を承認申請し、固形がんを予定適応症とする「RG7414」「RG7321」の2つが新たに臨床開発ステージに加わりました。

骨・関節領域では、大正製薬株式会社との共同開発による骨粗鬆症用注射剤の新製品「RG484(製品名: ポンビバ静注)」が承認を取得しました。

自己免疫疾患領域では、「アクテムラ」が関節リウマチを適応症とした**新剤形**^{※6} (**皮下注製剤**^{※7})について承認を取得し、5月に発売しました。「アクテムラ」は海外においても、

● キャッシュ・フローの状況

(億円)



ロシユが**巨細胞性動脈炎**^{※8}を予定適応症とする第Ⅲ相臨床試験を開始しました。

この他には、糖尿病を予定適応症とする「CSG452」の申請がライセンス契約先である興和株式会社及びサノフィ株式会社を通じて行われました。また、アルツハイマー病を予定適応症とする「RG1577」と、痛風を予定適応症とする「URC102」が臨床開発ステージに加わりました。「URC102」はJW Pharmaceutical社との共同開発案件であり、韓国で臨床試験を行っています。

今後、承認取得品目の発売を業績に結び付けていくとともに、引き続き開発パイプラインを拡充し、新製品及び適応拡大の更なる創出を目指してまいります。(詳細は、p9~10をご参照ください)

※5 悪性神経膠腫

脳の神経細胞(ニューロン)と神経線維の間を埋めている神経膠細胞から発生する腫瘍。原発性脳腫瘍の約25~30%を占める。

※6 剤形

剤形とは、医薬品を目的・用途に応じた適切な形にしたもの。錠剤、軟膏剤、注射剤など。

※7 皮下注製剤

少量の薬液を皮下組織に注射する剤形。点滴よりも簡便な投与法。

※8 巨細胞性動脈炎

大動脈またはその主要な枝に起こる肉芽腫性動脈炎。倦怠感や食欲低下、発熱、頭痛、視覚障害などを引き起こす。

■ 「ACCEL 15」の4つの重要変革テーマを推進し、日本のトップ製薬企業を目指す

本年度から3か年中期経営計画「ACCEL 15」がスタートしました。「ACCEL 15」は、重要変革テーマとして「営業生産性の向上」「グローバル開発の加速」「革新的プロジェクトの連続創出」「経営基盤の更なる強化」の4つを掲げ、日本のトップ製薬企業の早期実現に向けた「変革期」と位置づけています。

当社は「ACCEL 15」の3年間を通じて、営業面においては、製品力+αの高い付加価値の提供、変化に適応した効率的営業体制の構築、ロシュとの一層の協働による

世界シェア拡大に注力していきます。研究開発面では「アクトメラ」に続くグローバル製品の上市を果たすべく、ロシュとより緊密・柔軟に協働するとともに、グローバル開発能力の更なる強化を図ります。また、昨年シンガポールに設立した中外ファーマボディ・リサーチ社による**抗体創製技術**^{※9}を活用した開発候補品創出を核に、早期臨床プロジェクトへの資源集中を行うとともにオープンイノベーションの強化を進め、世界をリードする革新的な創薬研究を進めていきます。

■ 通期業績は増収増益予想を維持。中間配当に続き、期末配当も増配を予定

中間期までの順調な進捗を踏まえ、通期業績についても期初予想のとおり、売上収益4,160億円(前期比7.6%増)、Core営業利益775億円(同2.5%増)、CoreEPS 92.57円(同8.1%増)を見込んでいます。

なお、通期のCore配当性向は48.6%を計画しており、今回の中間配当は1株当たり22円(2円増配)とし、期末配当は同23円(3円増配)を予定しています。

「すべての革新は患者さんのために」という事業哲学のもと、当社は医療への更なる貢献を果たし、事業を持続的に発展させていくことで、株主のみなさまのご期待に応えてまいります。

☑ 用語解説

※9 抗体創製技術
従来の技術で創製された「通常抗体」では達成しえなかった製品プロファイルを実現することを可能にする創薬技術。

TOPICS



2013.JAN
2013.JUN

当社上半期の主な事業活動をご紹介します。

社会貢献活動の一環として、北京大学の医学生支援を目的に2013年より3年間、同大学の教育基金会に新たに設置された北京大学中外医学基金へ寄付を行うことといたしました。

新設された本基金により、北京大学の医学生支援に貢献できることを期待するとともに、次世代の教育に積極的に取り組んでまいります。

【寄付の概要】

1. 寄付金額：70万円/年
2. 期間：2013年より3年間
3. 北京大学中外医学基金の主な使途：

① 医学生に対する助学金

優秀な医学生が経済的な理由で勉強が継続できなくなることを救済する資金を支給

② 医学生に対する奨学金

医学生から、成績、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、社会貢献活動、ボランティア実績、研究成果等を評価して選抜し、奨学金を支給



関節リウマチ治療薬として発売しているヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体トシリズマブ(遺伝子組換え)『アクテムラ®点滴静注用』の新剤形として、『アクテムラ®皮下注162mgシリンジ』『アクテムラ®皮下注162mgオートインジェクター』が厚生労働省より「既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)」について、3月に製造販売承認を取得し、5月から販売を開始しました。既に上市している点滴静注製剤に加えて皮下注製剤の選択肢が増えることで、関節リウマチ患者さんのライフスタイルや医療従事者のニーズに合わせた治療が可能となります。

当社浮間事業所と同じ区内にある東京都北区立なでしこ小学校の土曜寺子屋教室で、公益財団法人日本科学技術振興財団とともに、「フライドチキンから骨を学ぼう!」と題した出前授業を5月に行いました。当日は、小学生とその保護者を含めて88名が参加しました。この教室では、科学技術館学芸員が講師を務め、フライドチキンを使って生き物の骨や体の特徴を学ぶ授業を行いました。

出前授業の様子



2013年

1月

2月

3月

4月

5月

6月

社会貢献活動の一環として取り組んでいる「在宅福祉移送サービスカー」の寄贈事業に対し、東日本大震災における被災者の支援活動として厚生労働大臣から感謝状を3月に受領しました。当社は、今後も被災地の復旧・復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

HER2陽性の手術不能又は再発乳がんに対する抗HER2ヒトモノクローナル抗体ペルツズマブ(遺伝子組換え)『パージェタ®点滴静注420mg/14mL』と、当社と大正製薬株式会社が日本国内で共同開発を行ってきた、骨粗鬆症に対するビスホスホネート系骨吸収抑制剤イバンドロン酸ナトリウム水和物『ボンビバ®静注1mgシリンジ』について、厚生労働省より製造販売承認をそれぞれ6月に取得しました。

IFRSで何が変わるの?

国際会計基準(IFRS)に移行しました!

当社は、昨年まで日本の会計基準(JGAAP)に基づいて連結決算を行ってきましたが、本年、2013年第1四半期からIFRSに基づく業績発表に移行いたしました。

これは、日本の製薬業界では最初、日本企業全体でも10番目のIFRS適用になります。

※IFRS: International Financial Reporting Standards

※JGAAP: Japanese Generally Accepted Accounting Principles

IFRSとは?

IFRSとは、世界120カ国以上で強制適用または企業による任意適用が認められている国際標準の会計基準です。日本では現在のところ一定の要件を満たした企業のみIFRSの任意適用が認められています。2013年6月末現在、当社を含め14社がIFRSで連結決算を行っており、その他に6社、うち製薬企業3社

が1-2年以内の適用を表明しております。現在、金融庁では任意適用要件の緩和等を含め、IFRS適用会社を増やすための検討が進められており、今後、日本においてもIFRS適用会社がさらに増えていくことが予想されます。

JGAAPは、日本の法制度や商慣行を考慮し詳細なルールや数値基準を定めることにより、主観的な要素を極力排除した日本固

● 2012年実績

(単位: 億円)	日本基準	(単位: 億円)	IFRS 実績	Non-Core (例外項目)	Core 実績
売上高	3,912	売上収益	3,866		3,866
製商品売上高	3,752	製商品売上高	3,752		3,752
その他の営業収入	160	ロイヤルティ及び その他の営業収入	113		113
売上原価	▲1,677	売上原価	▲1,682	+9	▲1,673
売上総利益	2,235	売上総利益	2,184	+9	2,193
営業費	▲920	販売費	▲679	+0	▲679
研究開発費	▲551	研究開発費	▲666	+0	▲666
		一般管理費等	▲92	+0	▲92
営業利益	764	営業利益	747	+9	756
営業外収益	30	その他の金融収入(支出)	▲19		▲19
営業外費用	▲40	金融費用	▲0		▲0
特別損益	▲1				
税引前当期純利益	753	税引前当期利益	727	+9	736
法人税等	▲263	法人所得税	▲258	▲3	▲262
少数株主利益	▲8				
当期純利益	482	当期利益	468	+6	474
		当社の株主持分	461	+6	466
		非支配持分	8		8

Core EPS 85.64円

1. 日本基準とIFRS実績の差異の主な要因は以下のとおりです。
 - ・有形固定資産の減価償却方法の違い(日本基準:定率法、IFRS:定額法)
 - ・外部から導入した開発品に係る一時金・マイルストーン支払いの会計処理の違い(日本基準:研究開発費、IFRS:無形資産)
 - ・外部に導出した開発品・製品の契約一時金受取りの会計処理の違い(日本基準:その他の営業収入、IFRS:繰延収益)
2. 以下の項目を調整してIFRS実績からCore実績を作成しております。
 - ・無形資産(例:外部から導入した開発品に係る一時金・マイルストーン支払い)の償却費及び減損損失
 - ・企業または事業買収による合併影響
 - ・事業再編費用、環境対策費用、訴訟費用、災害等の非経常項目
 - ・上記の税効果影響及び非支配持分利益

取締役
専務執行役員CFO
板谷 嘉夫

有の会計基準であり、保守主義の原則のもと、当期の損益を測定することに主眼が置かれております。一方、IFRSは、定められた原則の中で、各企業の実態に則した会計処理をそれぞれの企業が決定し、中立性をもって資産・負債に計上することを経営者に求めています。(なお、現在は、連結決算のみがIFRS適用の対象であり、単体決算には引き続きJGAAPが適用され法人所得税額の計算や配当可能限度額の算定に用いられます。)

Core(コア)実績って？

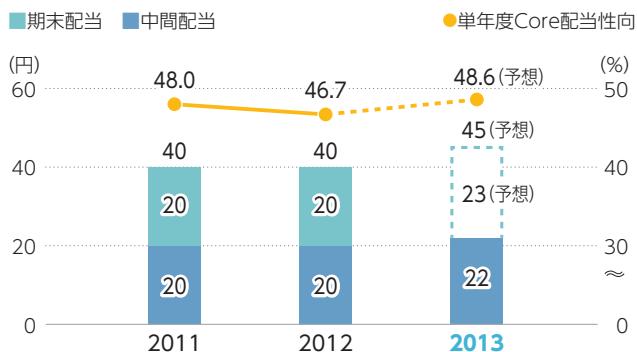
当社は昨年までJGAAPの営業利益を業績管理の指標として採用しておりました。JGAAPの営業外収益・費用、特別利益・損失に含まれていた項目は、IFRSでは為替差損益等の金融収支関連を除きすべて営業利益に含まれます。この結果、災害や事業再編等の非経常的な事象が発生した場合、また外部から購入した無形資産に減損が生じた場合等、その年のIFRS営業利益は大きく変動します。このため、当社事業の核(Core)である医薬品事業から発生する経常的な収益性を管理するための指標として、本年からCore実績を採用しております。

Core実績とは、IFRS実績から当社が非経常的と捉える事象等に係る損益等を除いたものです。同様の指標はロシュや他の欧米大手製薬企業でも採用されております。当社では、経常的な収益性の推移を社内外一貫してCore実績で説明するとともに、株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標としてもこれを使用しております。

株主の皆さまへのメリットって？

当社は昨年までJGAAPの当期純利益を用いた配当性向を配当額算出の指標としておりましたが、本年からこれをIFRS実績に調整を加えたCore実績の当期利益(当社の株主持分)に変更いたしました。Core実績は、IFRS実績から非経常的な事象等を除いているため、一時的な要因に左右されにくい安定的な指標であり、これを指標とすることで安定的な株主還元につながるこ

● 配当及び配当性向について



とが期待できます。

なお、今期より配当性向の目標値を従来の「平均して40%以上」から引き上げ、「Core EPS対比平均して50%」の配当性向を目処に、株主の皆さまへ安定的な配当を行うことを目標としてまいります。この方針に基づき、本年度の配当予想は昨年より5円増配し1株当たり45円としており、今回の中間配当は22円となっております。

※Core EPS:

Core Earnings Per Share. 1株当たりのCore実績の当期利益(当社の株主持分)

IFRS及びCore実績適用によるメリット

患者さまへの メリット

IFRSは、外部から導入した開発品に係る一時金等の費用の認識を将来の期間にわたって繰り延べられる等、製品導入がしやすい会計基準となっており、当社が革新的な新薬を継続的に提供するための中長期的かつ積極的な投資を促す効果が期待できます。

株主・投資家の 皆さまへの メリット

Core実績に基づいて配当を行うことにより、安定的な株主還元につながる事が期待できます。また、IFRS適用により、同じ基準で作成された世界各国の企業との財務情報の比較が可能となりました。JGAAPに馴染みの薄い海外投資家の皆さまの利便性が向上し、当社を投資対象とする投資家の裾野が国内外に広がっていくことが期待できます。

主な臨床開発の状況 (2013年7月25日現在)

開発コード 一般名/予定製品名/剤形	予定適応症	開発地域	ステージ(時期)				
			Phase1	Phase2	Phase3	申請中	承認
がん領域							
RG1273 ペルツズマブ/パージェタ/注射	乳がん	日本	[Progress bar]				(13/06)
	乳がん(アジュバント)	*	[Progress bar]				
	胃がん	*	[Progress bar]				
RG1415 エルロチニブ塩酸塩/タルセバ/経口	非小細胞肺がん[1次治療] (適応拡大)	日本	[Progress bar]				(13/06)
RG435 ベバシズマブ/アバスチン/注射	悪性神経膠腫(適応拡大)	日本	[Progress bar]				(13/06)
	卵巣がん(適応拡大)	日本	[Progress bar]				
	乳がん(アジュバント)(適応拡大)	*	[Progress bar]				
RG3502 トラスツズマブ エムタンシン/製品名未定/注射	乳がん	日本	[Progress bar]				(13/01)
	胃がん	*	[Progress bar] (P2/3) ***				
RG3638 onartuzumab/製品名未定/注射	非小細胞肺がん	*	[Progress bar]				
GA101/RG7159 obinutuzumab/製品名未定/注射	低悪性度非ホジキンリンパ腫	*	[Progress bar]				
	中高悪性度非ホジキンリンパ腫	*	[Progress bar]				
GC33/RG7686 一般名未定/製品名未定/注射	肝がん	*	[Progress bar]				
RG340 カペシタビン/ゼローダ/経口	胃がん(アジュバント) (適応拡大)	日本	[Progress bar]				
AF802/RG7853 一般名未定/製品名未定/経口	非小細胞肺がん	日本	[Progress bar] (P1/2) **				
		海外	[Progress bar] (P1/2) **				
RG7204 vemurafenib/製品名未定/経口	悪性黒色腫	日本	[Progress bar] (P1/2) **				
CIF/RG7167 一般名未定/製品名未定/経口	固形がん	日本	[Progress bar]				
		海外	[Progress bar]				
CKI27/RG7304 一般名未定/製品名未定/経口	固形がん	日本	[Progress bar]				
		海外	[Progress bar]				
PA799 一般名未定/製品名未定/経口	固形がん	海外	[Progress bar]				
RG7414 parsatuzumab/製品名未定/注射	固形がん	日本	[Progress bar]				
RG7321 pictilisib/製品名未定/経口	固形がん	日本	[Progress bar]				

*: 国際共同治験

** : 臨床第I/II相試験

*** : 臨床第II/III相試験

[Yellow box] : 2013年1月以降の進捗

Phase1(臨床第I相試験) 同意を得た少数の健康人志願者(領域・疾患によっては患者さん)を対象に、安全性及び体内動態の確認を行う。

Phase2(臨床第II相試験) 同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投与方法などを確認する。

Phase3(臨床第III相試験) 同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性と安全性を確認する。

開発コード 一般名／予定製品名／剤形	予定適応症	開発地域	ステージ(時期)				
			Phase1	Phase2	Phase3	申請中	承認
骨・関節領域							
RG484 イバンドロン酸ナトリウム水和物／ボンビバ静注／注射	骨粗鬆症	日本					(13/06)
RG484 イバンドロン酸ナトリウム水和物／製品名未定／経口		日本					
NRD101 ヒアルロン酸ナトリウム／スベニール／注射	腱・靭帯付着部症 (上腕骨外側上顆炎、膝蓋腱炎、 アキレス腱付着部症、足底腱膜炎)	日本					
自己免疫疾患領域							
MRA トシリズムブ／アクテムラ・Actemra・ RoActemra (EU)／注射	関節リウマチ (新剤形：皮下注射剤)	日本					(13/03)
	巨細胞性動脈炎(適応拡大)	海外					
	全身性強皮症(適応拡大)	海外					
SA237 一般名未定／製品名未定／注射	関節リウマチ	日本					
RG7415 rontalizumab／製品名未定／注射	全身性エリテマトーデス(SLE)	日本					
糖尿病領域							
CSG452 トホグリフロジン水和物／製品名未定／経口	2型糖尿病	日本					(13/04) ※
中枢神経領域							
RG1678 bitopertin／製品名未定／経口	統合失調症	*					
RG7090 一般名未定／製品名未定／経口	大うつ病	*					
RG1450 gantenerumab／製品名未定／注射	アルツハイマー病	日本					
RG1577 一般名未定／製品名未定／経口	アルツハイマー病	日本					
呼吸器領域							
RG3637 lebrikizumab／製品名未定／注射	気管支喘息	海外					
その他の領域							
CIM331 一般名未定／製品名未定／注射	アトピー性皮膚炎	日本					
ACE910 一般名未定／製品名未定／注射	血友病A	日本					
RG7652 一般名未定／製品名未定／注射	高脂血症	海外					
URC102 一般名未定／製品名未定／経口	痛風	海外					

※ CSG452の製造販売承認申請は興和株式会社及びサノフィ株式会社の2社が実施

● がん領域

アバスチン [®]	抗悪性腫瘍剤
ハーセプチン [®]	抗悪性腫瘍剤
リツキシサン [®]	抗悪性腫瘍剤
ゼローダ [®]	抗悪性腫瘍剤
タルセバ [®]	抗悪性腫瘍剤
ノイトロジン [®]	好中球減少症治療剤
フェマーラ [®]	抗悪性腫瘍剤
カイトリル [®]	制吐剤



アバスチン[®]

● 腎領域

ミルセラ [®]	腎性貧血治療剤
エボジン [®]	腎性貧血治療剤
オキサロール [®]	二次性副甲状腺機能亢進症治療剤
レナジェル [®]	高リン血症治療剤



ミルセラ[®]

● 骨・関節領域

アクテムラ [®]	関節リウマチ治療剤
スベニール [®]	関節機能改善剤
エディロール [®]	骨粗鬆症治療剤
アルファロール [®]	カルシウム・骨代謝改善剤



アクテムラ[®]

● その他の領域

タミフル [®]	抗インフルエンザウイルス剤
シグマート [®]	狭心症・急性心不全治療剤
セルセプト [®]	免疫抑制剤
ペガシス [®]	ペグインターフェロン α -2a 製剤
コペガス [®]	抗ウイルス剤



タミフル[®]



くすりのはなし 5

日常生活の中でお役に立つ“くすりのはなし”。今回は、くすりと副作用についてのおはなしです。



▶ 詳しくはホームページをご覧ください

中外製薬 くすりのはなし

検索

くすり副作用

副作用の起こるケースは

薬は必要なところで効果的に働くだけでなく、他のところにも影響をあたえることがあります。

かぜ薬を飲んで鼻水は止まったけれど、とても眠くなってしまったという場合のように、目的以外の好ましくない作用は「副作用」と呼ばれています。副作用が現れる原因はさまざまです。



◆くすりの性質によるもの

治療する目的と違う部位で効いてしまったり、目的以外の効果がでてしまったりすることがある。

◆くすりの使い方によるもの

飲む時間、間隔、量などの間違いや他の薬、食品などとの飲みあわせで起こることがある。

◆患者さんの体質と生活習慣によるもの

年齢、性別、体重、嗜好品などの影響で起こることがある。

◆患者さんのその時の病状によるもの

体調がよくない時は薬の影響を受けやすい。

さまざまな副作用

一般的に使われている薬の主な副作用です。

鎮痛剤	胃腸障害、腎障害、肝障害、アレルギーなど
胃腸薬	眠気、のどの渇きなど
精神安定剤	眠気、ふらつき、めまいなど
抗ヒスタミン剤	眠気、発疹など
抗生物質	胃腸障害、腎障害、アレルギーなど

副作用には個人差があります。いつもと様子が違うときは医師・薬剤師に相談しましょう。

副作用を防ぐために

副作用について正しく理解しておけば、必要以上に不安に思うことはありません。では、何をしたらよいのでしょうか。



◆くすりの作用、病気に対するくすりの必要性を理解する

医師は、薬の効果と、副作用の可能性の双方を考えて薬を処方していますので、場合によっては副作用よりも、治療効果を優先して処方することもあります。あらかじめ自分の病気や副作用について、医師・薬剤師から説明を受け、理解しておきましょう。

◆くすりの副作用について良く理解する

どんな副作用が現れる可能性があるかを知っておきましょう。少し様子を見ても大丈夫な副作用か、緊急の対応が必要な副作用か、などの対処法についても事前に知っておくと安心です。

◆正しいくすりの飲み方を理解する

飲む時間、間隔、量や飲みあわせ、生活上の注意点などについてもよく理解しておきましょう。

◆普段と異なる症状がないか、冷静に自己観察する

不安になって自分の判断で薬を飲むのを止めてしまったり、量を加減したりすると、かえって病気を悪化させることもあります。気になる時は必ず医師・薬剤師に相談しましょう。

会社の概況／株式の概況 (2013年6月30日現在)

会社概要

会社設立	1943年(昭和18年)3月8日
創業	1925年(大正14年)3月10日
資本金	72,966,825,723円
従業員数	6,898名(連結)
本店	東京都北区浮間五丁目5番1号
本社事務所	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

役員

取締役

代表取締役会長	永山 治
代表取締役副会長	上野 幹夫
代表取締役社長	小坂 達朗
取締役副社長執行役員	山崎 達美
取締役専務執行役員	板谷 嘉夫
社外取締役	大橋 光夫
社外取締役	池田 康夫
社外取締役	ウィリアム・エム・バーンズ
社外取締役	ダニエル・オデイ
社外取締役	ソフィー・コルノウスキー・ボネ

監査役

常勤監査役	三輪 光太郎
常勤監査役	渡辺 邦敏
社外監査役	原 壽
社外監査役	石塚 達郎

株式状況

発行可能株式総数	799,805,050株
発行済株式の総数	559,685,889株
株主数	37,619名

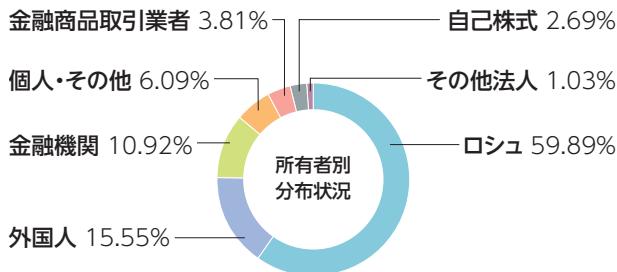
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ROCHE HOLDING LTD	335,223	61.55
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,143	2.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,295	2.25
ドイツ証券株式会社	5,607	1.02
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	4,987	0.91
東京海上日動火災保険株式会社	3,787	0.69
野村証券株式会社	3,710	0.68
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	3,701	0.67
中外製薬社員持株会	3,613	0.66
野村証券株式会社自己振替口	3,400	0.62

※当社は自己株式15,076,660株を所有しておりますが、上記の大株主(上位10名)の中には含めておりません。

※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式の数を控除して計算しております。

株式分布状況





くすりの中に私があります。

病気に国境はない。

くすりの認可には国境がある。
世界で最も厳しい基準を
クリアすれば、国境はなくなる。

中外製薬は、グローバル・ネットワークを活用し
日本から世界へくすりを届けています。

人生の大切な時間にくすりが間にあうように。



中外製薬

Roche ロシュグループ

<http://www.chugai-pharm.co.jp/>

UD FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



用紙は、FSC®森林認証紙を使用しています。インキはVOC(揮発性有機化合物)が1%未満のノンVOCインキを使用しています。印刷は有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷を採用しています。



中外製薬株式会社

Roche ロシュグループ

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町 2-1-1
TEL.03(3281)6611 (代表)